

しあさい



初夏の桑畑山から尻屋崎とアタカ(寒立馬越冬地)を望む

CONTENTS

- 特集記事 シリーズ④ ふるさと見聞録 くわはら 桑原を訪ねて……………2
- 明日へのかけはし:東通村社会福祉協議会……………4
- クローズアップ こんにちは元気さん:菊池 きくち 弘子さん ひろこ……………4
- これ!うっまあ!!:辛味焼きホタテ/東通牛ヒレ肉の漬け……………5
- 地元の特派員レポート:武井 たけい 菜菜さん かな・武井 たけい 結菜さん ゆいな/北川 きたがわ 幹雄さん みきお 6



東通村イメージキャラクター
かんだちくん



武士の流れをくむ家系が暮らす!

くわ はら 桑原を訪ねて

深い絆で結ばれた人々がいる、歴史ある地域

東通村砂子又と蒲野沢の間、田名部川沿いの山すその平地にある集落が桑原地区です。

江戸時代末期から明治時代初期にかけて、武士の流れをくむ家系がこの地に移り住みました。人々は川のそばで暮らし始めたことから、血縁関係がなくても、みんなと同じ「川端」姓を名乗りました。

桑原地区は、「1760年(宝暦10年)には、円流寺(砂子又地区)の後ろの山の北東にあった」と法林寺(蒲野沢地区)に残されている古文書に記されています。しかし、1782年(天明2年)に始まった天明の飢饉で、桑原をはじめ、砂子又、蒲野沢、鹿橋、野牛で餓死する人が出て、人々は八戸や三戸などに移り住みました。そして桑原は、1784年(天明4年)に一旦、消滅してしまいました。ところが、天保の時代(1830年～1844年)、各地に離散していた桑原の人々は、昔住んでいたところから4kmほど離れた現在地に、豊かな恵みをもたらす川を求めて移り住み、復活します。

やませの影響で米は作れなかったため、アワ、ヒエなどを作ったり、農耕用に牛馬を育て、農林業と出稼ぎで生計を立てていましたが、1975年(昭和50年)以降は、地区の多くの人々が企業などに勤めています。

地区の神社は、北西部にある稲荷神社です。神社の祭りは4月16日に行われています。



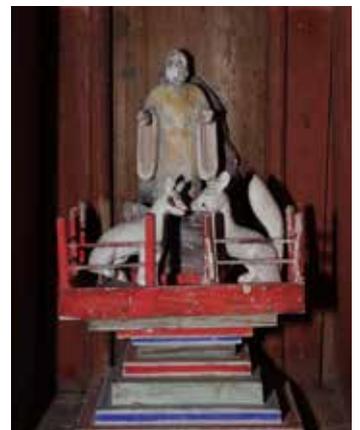
法林寺や地区会長のご自宅に保管されている古文書



稲荷神社

だが、今から60年ほど前には蒲野沢に合わせて9月14日と15日に行われるようになりました。能舞は80年前までは開催されており、権現様の頭や太鼓、梵天が集会所に残されています。

また、集会所の手前には、大東亜戦争(太平洋戦争)で桑原地区から樺太に渡った川端辰五郎さんが「珍しいから」と苗木を持ち帰ったとされる、大きなモミの木が植えられています。



稲荷神社の奥の院



モミの木

地区の活動としては、地区会が春の清掃、ゴミ拾い、草刈りなどを開催。地区の女性方で構成する「ババ会」は、集会所に安置されている「千手観音菩薩」を守り、墓地清掃も行っています。行事の際は、一声かければみんながすぐに集まるなど、血縁関係はなくても深い絆で結ばれた人々が暮らす、あたたかい集落です。



桑原地区

田名部海邊三十三番順礼札所 六番札所として 「千手観音菩薩」を大切に守る!

下北半島には、比叡山・高野山と並ぶ霊場、恐山があることから、恐山信仰を中心として観音巡礼も行われるようになりました。

田名部海邊三十三番順礼札所は、一番札所の円通寺から三十三番札所の恐山までありますが、東通村内には5カ所の札所が点在しています。そのうちの1つが、桑原集会所に安置されている「千手観音菩薩」です。



桑原集会所

この観音様は安産祈願の

仏様で「ババ会」の女性方は毎年、1月17日の祭りを祝います。

1965年(昭和40年)頃までは、しとぎ餅を配って地区のみんなに分け与えていたそうです。今も年に数回集まって、観音様を大切に守っています。

ところで、桑原地区に海はありません。なのにどうして、田名部海邊三十三番順礼札所の1つなのでしょう。一説では、海のある猿ヶ森地区から、大切な観音様を誰かに奪い取られないよう、奥地であったこの地に託したと伝えられています。



千手観音菩薩



桑原地区 会長 川端 正夫さん(73歳)

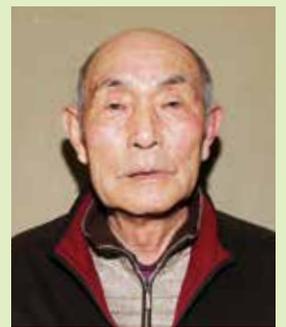
桑原地区は、世帯数13戸、人口30人。武士の流れをくむ家系が多く住む集落です。戸数は少ないけれど、昔からみんなが一致団結し、助け合って暮らしてきました。これからも隣同士声を掛け合い、協力して、健康で楽しく過ごしていきたいと思っています。

地区の役員として、神社の管理などを補佐してきました。我が家は蒲野沢地区の石田家からの分家で、ここに暮らして60年になります。桑原地区は、静かで暮らしやすい所です。みんなで寄り添い、協力し合い、互いに見守りあっています。



桑原地区 役員
石田 金三さん(72歳)

長い間、地区の役員として仕事に励んできました。我が家は盛岡藩の流れをくむ家柄で、かつての苗字は藤原でした。昔の武士の流れをくむ家系に、誇りを持って過ごしてきました。これからも元気に、長生きして、地区のためになるよう頑張りたいです。



桑原地区 事務兼副会長
川端 惣八さん(81歳)

明日への かけはし

東通村の頑張るグループを紹介

下北初! 買い物支援サービスが好評!! [東通村社会福祉協議会]

東通村における福祉のまちづくりの実現を目指し、1992年(平成4年)に設置された東通村社会福祉協議会。これまで地域介護予防活動や地域の生活支援など、さまざまな事業を展開してきました。

今年4月から、試験的にひとり暮らしの高齢者の見守りを行うため、買い物支援サービスをプラスした新しいカタチの事業を始めました。まずは地域の高齢者と「仲良くなれる」ようにコミュニケーションをとることから始め、活動を通して、「個人の見守りから地域全体の見守り」「地域の活性化」につながる事業を目指しています。買い物支援車の名称は、一般公募により「わんつCAR」に決定。車両には、日用品や食料品などが並んでいま

す。3月27日には出発セレモニーが行われ、さっそく白糠地区で販売を行い、多くのお年寄りが集まりました。

東通村社会福祉協議会 会長の柴田妙子さんは「買い物に難しい年配の方も、買い物支援車が来ることで食料品を買うことができ、かつ定期的に回ることで見守りにも繋がる画期的なサービスです。将来は、注文された品物のみを届ける体制にして食品ロスなどを減らしたり、買い物支援車が止まるところがお年寄りの交流の場とし



東通村社会福祉協議会 会長 柴田妙子さん
での役割を果たせるようになればと思っています」と話していました。

また、4月下旬には、元気な高齢者に、支えられる側から支える担い手となり自身の生きがいに繋げて欲しいと、東通村シルバー人材センターを開設。「地域住民のための社会福祉協議会として、手探りながらも新しいことにどんどんチャレンジしていきたい」と意欲を見せていました。



「わんつCAR」の出発式



白糠地区の様子



買い物支援車の商品

村内で元気に活動する人を紹介!

元気さん

こんにちは 元気さん

元気さん

おいしい野菜作りに励む

きくち ひろこ
菊池 弘子さん(86歳)

毎日、野菜作りに精を出し、野牛川レストハウス隣の東通村生産物等直売所で“看板娘”として親しまれている、菊池弘子さんにお話を伺いました。

春の土の匂いに包まれたビニールハウス。トラクターを使って畑を耕し、小さな育苗ポットに野菜の種を植える菊池弘子さん。19歳で東通村目名地区に嫁いで以来、ずっと野菜作りに励んできました。

菊池さんは、1958年(昭和33年)にビニールハウスを建てると、ほうれん草を育ててJAIに出荷。1996年(平成8年)

に東通村生産物等直売所が始まると、じゃがいも、大根、きぬさやなどを植え販売。現在は、村内の直売所のほかに、むつ市役所内のJA直売所にも野菜を並べています。

こだわりは土づくり。東通村堆肥供給センターのEM菌を活用した牛糞堆肥だけを使い、化学肥料は使用しません。そして種まきは、一粒万倍日にするなど縁起の良い日を選んでいきます。「直売所に野菜を出すときは、旬の時期からずらすようにしている。野菜が少ない時期に出すことで、お客さんに喜んでもらえるから。歳をとって肥料を運ぶのは重く感じるようになってきたけど、それ以外は機械を使えば大変なことは何もない。直売所でいろんな人と話し『弘子さんの野菜はおいしい』って言わ



れると嬉しいな」と満面の笑み。若さの秘訣は、車の運転と編み物。「仕事と遊びで体を動かすだけでなく、編み物で頭を使う、両方が大事なんです」

とにかく新しいことが好き。「きぬさやの種も、新しいのが出たらすぐに買って植えてみるんです。これからも元気に野菜を作り続けたい」と話していました。



ていねいに育苗ポットに種を植えています



キャベツ



きぬさや



ネギ



ニンニク



これ! うまあ!!

自然豊かな東通村には、素晴らしい特産品が揃っています。そこで、旬の食材を使った料理をご家庭でも楽しんでいただきたく、管理栄養士の野呂先生に一手間加えた簡単レシピをご紹介します。



辛味焼きホタテ

4人分



〈材料〉

ホタテ、塩、小ネギ1本、糸唐辛子少々
[辛味ダレ] にんにく小さめ1かけ、しょうがにんにくと同量、しょうゆ大さじ2、酒大さじ1、白ごま小さじ2、ごま油小さじ2、コチュジャン小さじ1/2

〈作り方〉

①ホタテは殻から外しウロを切り取ります。貝柱を半分にスライスし、ヒモは食べやすいように切っておきます。



②にんにくとしょうがをすりおろし、辛味ダレの材料を合わせてタレを作ります。小ネギは小口切りにします。

③殻をきれいにし、皿のかわりにしてホタテの身をおき、塩を1つまみずつ振ります。殻でふたをしてオーブンやグリルで加熱します。



④殻のふたを開け、辛味ダレをかけ、小ネギ、糸唐辛子をのせます。

ワンポイントアドバイス

ホタテに火が通りすぎないように、軽く蒸すようにすると柔らかくできますよ。

東通牛ヒレ肉の漬け

4人分



〈材料〉

牛ヒレ肉200g、塩小さじ1/3、ブラックペッパー適量、油小さじ2
[ネギダレ] 長ネギ10cm、しょうゆ大さじ2、酒小さじ2、添え野菜適量

〈作り方〉



①牛ヒレ肉に塩とブラックペッパーをすりこみ、30分～1時間おきます。

②フライパンに油をなじませ、牛肉を入れて中火～弱火で焼きます。各面を20秒～30秒ずつ焼いてバットに取り出しておきます。



③長ネギをみじん切りにし、しょうゆと酒を混ぜネギダレを作ります。



④ジップ袋に肉を入れ、ネギダレを回しかけて密封し、冷蔵庫で1日おきます。

⑤牛ヒレ肉を取り出してうすくスライスし、野菜と共に盛り付ける。野菜には袋に残ったネギダレをかけます。



ワンポイントアドバイス

東通牛のおいしい脂が外に出すぎないように、加熱のしすぎに注意しましょう。

のろひろこ 〈野呂浩子先生のプロフィール〉

管理栄養士。むつ市で、ロースイーツクリエイター青森認定校「ヒロ クッキングサロン」を運営する。地元の旬の食材を生かして、栄養たっぷりのおいしい料理を作る。青森県の発酵食品を使ったイベントや、トントウビレッジなどの料理教室で指導を行っている。

※ロースイーツは、生の食材で作るスイーツのこと。生の食材を使うことで、その食材の持つ酵素をそのまま摂取でき、体にやさしいスイーツができる。



村内各地区の皆さまから心温まる情報をお届けします。

地元の特派員レポート

レポートは4月に作成し
写真は特派員が
自ら撮影したものです。



私たちの居場所

東通村砂子又在住 東通小学校(6年)
たけい かな ゆいな
武井 葉菜さん・結菜さん(11歳)

私たちの住む「ひとみの里」は砂子又地区にあります。周辺には、役場、消防署、地域医療センター、こども園、小学校、中学校などがあり、住み始めたころは数軒しかなかった家やアパートが今ではたくさん増えてきています。天気の良い日には真ん中公園で遊んだり、野花菖蒲の里の散歩コースを歩いたりして、途中の池にいる大きな鯉を見たり季節によって変わる風景を楽しんでいます。役場前にはふるさと広場があり、消防団の観閲式の時には一斉放



野花菖蒲の里

水が行われ、その光景はともきれいです。

最近では、東通原子力発電所立地地域事務所にプチマートができるということで買い物をするのが楽しみです。イベントホールなどもあるそうなので、どんなイベントが行われるのかとワクワクしています。

今は新型コロナウイルスの影響でお祭りなどのイベントがなくなり悲しいです。早く新型コロナウイルスが収まり前のように楽しいイベントが行われ、たくさんの人が集まり笑顔がいっぱいであふれるひとみの里になればいいなと思います。



ふるさと広場



東通原子力発電所立地地域事務所

その美しさを守る

きたかゆ みきお
東通村小田野沢在住 北川 幹雄さん(60歳)

ここ数年、土が恋しくなり、猫の額ほどの家庭菜園を始めました。昨年、大根のような巨大なサツマイモを収穫できましたが、味はまいち。年相応にのんびりペースで楽しんでいます。

さて、私の住む小田野沢は、むつ方面から来ると長い下り



サツマイモの収穫



深山神社・鍵懸神社

坂を降りたところにあり、やませの時期には深い霧が立ち込め、ニョロニョロの住むムーミン谷を思わせる幻想的な所です。集落の中には、水の神「少彦名命」を祀る深山神社、火の神「豊玉彦命」を祀る鍵懸神社を合祀した神社があり、住民のよりどころとなっています。9月の例大祭には、私も在籍する神楽会で大大神楽を奉納し、地域と世界の安寧を祈願しています。

また、小田野沢は、尻労を北端とする日本最大級の猿ヶ森砂丘(南北17km)の南端で、鳴き砂が有名です。鳴き砂は、ごみが少ないことがよく鳴く条件のひとつらしいです。鳴き砂の



猿ヶ森砂丘

保全のためにも、SDGsを意識して身近なところから気を付けて行きたいです。

「電気ご使用量のお知らせ」について

当社では2021年11月から、環境にやさしい省エネルギー社会の実現に向けた取り組みとしてペーパーレス化を図るため、「電気ご使用量のお知らせ」をインターネットによりお知らせする方法に見直しいたしました。「電気ご使用量のお知らせ」の郵送を希望されるお客さまは、電話にてお申込みください。なお、契約種別によっては書面発行手数料(110円)を毎月の電気料金へ加算し申し受けます。【お申し込み・お問い合わせ先】東北電力(株)カスタマーセンター TEL0570-550-220(平日9:00~17:00)

発行 東北電力(株)東通原子力発電所広報課
〒039-4293 青森県下北郡東通村大字白糠字前坂下34番4
TEL0175-46-2225・FAX0175-46-2227

しおさい、PSつうしんのバックナンバーはこちら→

誌名「しおさい」について

★東通村で絶えることなく聞こえる心地よい波の音(しおさい)のように、皆さまの心に末長く心地よく響き続ける広報誌でありたいという思いを込めています。



編集後記

しおさい第26号は、いかがでしたでしょうか。
今回、新たな企画として「これ!うつまあ!」を掲載いたしました。全戸訪問活動の際にご協力いただいているアンケートにおいて「地元の農産物や水産物を使ったレシピを紹介してほしい」など料理企画を望む声を頂戴していたことから、今回の企画を掲載する運びとなりました。
今後、東通村の皆さまのご意見を頂戴しながら、皆さまと一緒にしおさいを作っていきたいと考えておりますので、引き続きご愛読のほどよろしくお願いたします。